

低炭素材料の研究推進

大研
北属
東金

車、家電な
ど広範分野

産学官連携を拡大

東北大学金属材料研究所は、低炭素社会の実現に貢献する革新的な材料の創製を目指す基礎・応用研究を開始した。自動車、鉄鋼、重電・家電、エネルギー・環境と広範な分野で産学官連携を図る体制を整備した。4月に設置した「低炭素社会基盤材料融合研究センター」を中心に国内外で共同研究を推進し、産学官連携を拡大していく。

同センターは、省エネルギーから新エネルギーまでの多様な材料研究に関するシーズの育成・発展を目的に研究所内に設置。金属研の重点分野である社会基盤材料、エネルギー材料、エレクトロニクス材料にまたがる融

合研究に取り組む。具体的には、構造用金属材料、水素機能材料、スピンエレクトロニクス材料、半導体材料、太陽電池材料などの関連部門が参加しており、産学官連携の幅を広げていく予定となっている。

すでに、資源性に優れたエネルギー貯蔵材料の設計（水素機能材料工学研究部門・折茂慎一教授）や、省エネ半導体素子・太陽電池の高効率化（電子材料物性学研究部門・松岡隆志教授）、車両軽量化などを目指した高強度鉄鋼材料創製のための新原理（金属組織制御学研究部門・古原忠教授）などの研究開発を始めている。